

博士課程教育リーディングプログラムフォローアップ報告書(平成24年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	京都大学大学院思修館	申請大学名	京都大学
申請大学長名	松本 紘		
プログラム責任者	淡路 敏之		

1. 進捗状況概要

- 全体として順調に進行しており、ハード面についても整備が進んでいることが確認された。ただし、今回は、学生から直接プログラムに関する意見等について確認することができなかったこともあり、今後も継続的に進捗状況等をチェックしていくことが重要である。

2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）

- 学生の教育に関するメンター、ならびにコーディネーターとして指導等に当たる専任教員について、今後、学内の教員を中心に構成するとのことだが、リーダー養成の観点から当該専任教員は学外者の採用を増やし、学内の教員とは異なったバックグラウンド、異なった経験を持つ人材を参画させ多様化を図ることが必要である。
- 各研究科の協力を得やすくする等の観点から、これまで京都大学において学術上大きな貢献を果たした者を、長期的なリーダーとしてプログラムの中心に置くことも検討すべきである。
- 学位プログラムについて、概念としては理解できるが、博士課程の教育内容の主たる部分は何なのかという点を一層明確にする必要がある。また、アウトカムポリシーを明確にしておくことも重要である。
- 今後、大学側から世界に向けて、積極的に本プログラムに関する情報を発信していくことが望まれる。
- 既存の大学院教育がしっかりした上でこそ、本プログラムが成り立つと考えられることから、その点に注意しながらプログラムを進めて行くことが必要である。また、本プログラムの取組を大学全体の教育改革に繋げて行くことが重要である。
- ユネスコ等、様々な国際機関の人材養成システムを調査・活用するなど本プログラムをより良いものとするための努力を期待したい。